

課題名	1 常緑果樹の品種選抜	分類	②
	晩生カンキツの新品種 '津之香' の特性		
試験研究年次	60~2年 (完了)		
I 目的			
農林水産省で育成されたカンキツについて、県内における適応性を検討し、本県に適した優良系統を選定する。			
II 試験方法			
1 来歴	昭和47年に農林水産省果樹試験場口之津支場において、清見タンゴールに興津早生を交配して育成され、昭和59年に口之津12号の系統名で適応性検定試験に供され、平成2年タンゴール3号として品種登録された。		
2 試験場所	園芸研究所果樹圃場		
3 地形、土壌条件	標高150m、緩傾斜地、花こう岩砂壤土		
4 植栽年次	昭和60年4月、カマド台1年生苗を植栽		
5 土壌管理	草生、樹冠下しきわら		
6 施肥量	平成2年度(6年生)、窒素30.5、りん酸21.5、カリ24.5kg/10a		
III 主要成果の概要			
'津之香' は3月~4月に成熟する晩生のタンゴールタイプのカンキツとして、県内に適応できる品種である。			
1 品種特性			
樹性	樹の開張性は中程度で樹勢はやや弱い。枝葉はやや密生し、刺はない。葉はやや小さく、清見と同様な波状葉が認められる。		
結実	樹齢3年目で結実を始め、収量は6年生樹で1樹当たり10kg程度である。結実性は良く豊産性である。		
果実	果実は180g前後で、果形指数130程度の偏球形である。果皮色は橙色で清見より濃い。11月上旬に着色し始め、12月下旬にはほぼ完全着色となる。果皮は薄く、剥皮が容易である。果肉は橙色で柔らかく、多汁で、清見と同様なオレンジ香がある。糖度は中、クエン酸はやや高い。じょうのう膜は薄い。含核数は比較的少ない。クエン酸の減少から判断すると果実の成熟期は3月下旬~4月である。		
耐病性	かいよう病に比較的強い。		
2 栽培上の留意点			
栽培適地	冬季温暖な玄海灘沿岸で甘夏柑が樹上で越冬できる地域。		
結実管理	樹は豊産性であるが、結果量が多いと果実は小さくなるので結果過多を避ける。		
収穫期	樹上で越冬させて果肉品質が高まる3月下旬~4月に採取する。		

IV 主要成果の具体的データ

第1表 樹齢に伴う樹の大きさと収量の推移

	62年	63年	1年	2年
樹齢 (年)	3	4	5	6
幹 周 (cm)	6.9	9.0	11.2	13.2
樹 容 積 (m <sup>3</sup> )	0.3	0.7	1.7	2.3
収 果 数 (個)	8	15	27	56
量 重量 (kg)	1.0	2.4	5.0	9.6

注) 収量は1樹当たり

第2表 果実品質の年次変化

分析 年月日	着色	果重 g	果肉 歩合 %	糖度	可溶性 固形物 g	クエン 酸 g	甘味 比	含核 数 個
63.1.19	6.0	177	82	9.0	10.1	1.74	5.8	2
1.2.21	8.0	227	74	9.6	10.9	1.39	7.8	11
2.1.19	7.5	185	80	10.4	11.9	1.62	7.3	15
3.2.20	8.8	193	79	10.5	11.0	1.37	8.1	8
滑見 3.2.20	7.9	196	74	12.0	13.0	1.31	9.9	-

注) 着色はカラチャートの値、滑見は樹齢12年生。

第3表 果実品質の時期的変化 (2年)

分析 年月日	着色	果重 g	果肉 歩合 %	糖度	可溶性 固形物 g	クエン 酸 g	甘味 比
2.12.21	6.8	219	76	9.0	10.3	1.50	6.8
3. 1.21	7.8	200	79	10.0	10.8	1.44	7.5
2.20	8.8	193	79	10.5	11.0	1.37	8.1

注) 着色はカラチャートの値

V 成果の評価と取扱上の留意点

3月～4月に成熟する甘夏柑や滑見に代わる優良な晩生カンキツであり、今後県内産地や簡易施設において試作検討する必要がある。

VI 今後の研究上の問題点

樹齢増に伴う特性の変化

VII 資料名

- 1 62～2年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書
- 2 62～2年度常緑果樹系統適応性・特性検定試験成績書